

特別展示

かみさと の むら絵図

～賀美・長幡・七本木・神保原・上里～



令和2年7月1日(水)
～8月16日(日)

上里町立郷土資料館

(表紙絵) 明治 18 年 (1885) の七本木村と石神村

この地図は日本陸軍参謀本部の外局で国内外の地理・地形などの測量・管理にあたった陸地測量部 (現在の国土地理院) が明治 18 年に測量した 1/20000 の地図 (本庄町 明治 26 年 (1893) に再販) です。

ここには明治 22 年に合併して神保原村となる前の中山道の沿道に広がる石神村と同じく藤岡道の沿道にある七本木村が描かれています。この地図によるとこの両方の道が本庄市小島で合流して本庄宿につながっています。

ごあいさつ

上里町立郷土資料館には、上里村になる前の賀美村、長幡村、七本木村、神保原村の行政資料が保管されています。こうした資料の中には土地台帳やそれに伴う耕地図や字切図などがあります。こうした資料はすべて手書きであり赤や青、茶などの色で綺麗に区分され、今ある地図のイメージとはちょっと趣が違います。また、昭和 29 年 (1954) に合併して以降の上里村地図の変遷は“かみさと”の歴史そのものをかいま見ることができます。

今回はこうした地図の中で、明治 22 年 (1889) 4 月 1 日の町村制施行に伴い合併して誕生した賀美村、長幡村、七本木村、神保原村及び昭和 29 年 5 月 3 日に合併した上里村・上里町の明治～昭和の地図を展示いたします。これらの地図をよく見ると当時の様子がよくわかります。現在の上里町と対比しながらぜひご覧下さい。

上里町立郷土資料館

○上里町周辺地質図

この地質図によれば上里町は大きく分けて 1 下位段丘 (微高地 本庄台地 更新世扇状地 薄黄色) と沖積低地 (Ⅰ面、中洲・自然堤防 完新世神流川扇状地 茶色) ・沖積低地 (Ⅰ面、後背湿地 濃青) 及び沖積低地 (Ⅱ面、自然堤防 烏川低地 濃緑) ・沖積低地 (Ⅱ面、後背湿地 烏川低地 灰色) に分類することができます。

また、その中に旧河道 (紺) が流れた低地の痕跡が残されています。それはそれぞれの時代の成り立ちにより区分されています。

上里町は、町の北西部を流れる神流川によって形成された更新世扇状地 (本庄台地・新生代第四紀洪積世 以下本庄台地) とそれを新たに開析しながら形成された完新世扇状地 (新生代第四紀沖積世 以下神流川扇状地) とこの両扇状地をさらに開析して形成された烏川低地に分類されています。

本庄台地は大御堂砂礫層と立野砂礫層の二つの砂礫層 (大御堂砂礫層・立野砂礫層) で形成され、その上を大里ローム層及び立川ローム層が覆っています。立川ローム層には 2 枚の埋没土層が認められ、これが南関東の立川第 1、第 2 黒色土層に相当するこ

とからこの扇状地がつくられたのはおよそ3万年前頃と考えられています。

神流川扇状地は、現在の神流川に沿って展開されており、神川町大字新宿付近を扇頂として上里町大字金久保を扇端とする長さ11km、幅4kmの範囲に広がっています。この扇状地はローム層及び立野砂礫層を開析して新たな砂礫層（下郷砂礫層）や粘土層（下郷粘土層）を堆積して扇状地を形成しました。そこで本庄台地より1段低い地形面に属し、さらにその中でも堤面と堀込面の2段の高低面に区分されています。高い堤面は本庄台地との境付近に沿って散逸的に分布し、低い堀込面には旧河道跡と思われる曲流地形が存在し、この曲流地形によってつくられた微高地上にさまざまな遺跡が確認されています。烏川低地はこの中で最も新しい地形面で、上里町の北側を流れる烏川沿いの上里町大字勅使河原、黛、忍保、八町河原に認められます。

○神流川省略河川台帳平面図（1/3000）

大正11年（1922）9月25日/大正12年3月31日

この平面図は賀美村大字勅使河原から金久保、黛までの神流川の様子が記載されています。特に河川台帳記号の中にある堤防や沈床（※1）、水制（※2）、石出、土出、杵類（沈杵や続杵）、合掌及び牛類（笈牛や菱牛など）、蛇竈などは川の氾濫を防ぐための川除普請に使われる工法で、その広がり神流川が水源から近く、また、烏川と合流する場所にあることから、近年までその縁辺に位置する村々は、河川の氾濫による水害に悩まされてきたことを物語っています。

川除普請は水害防止のために行う河川の浚渫や堤防の工事のことで、江戸時代、洪水などの大きな災害に伴う復旧工事には、幕府が全額を負担した「公儀御普請」、幕府が大名に命じ、幕府が材木・杭木などの材料を提供し、大名が人足・竹・材料の伐採・運賃などを負担する「大名御手伝い普請」、経費の1割を幕府、残り9割を決められた地域の住民が負担する「国役御普請」、藩主が領内で行う「領主御普請」などがありました。また、被害の村が1村で行う「自普請」や被害にあった村々が共同で行う「組合自普請」もありました。

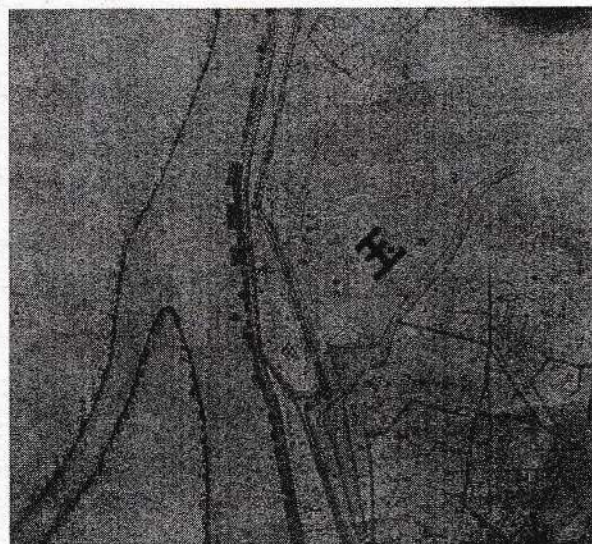
こうした中、勅使河原の字矢田は、小山川（忍保川）の水源となっている清水がわいていた地域で、ここの堤が決壊すると、この小山川沿いに氾濫が拡大し、本庄宿をはじめその周辺の19～21ヶ村ほどが被害を受けることになります。そこで、弘化3年の大水を契機として本庄宿及び19ヶ村（小嶋村・仁手村・下野堂村・沼和田村・久々宇村・杉山村・傍示堂村・新井村・都島村・田中村・牧西村・滝瀬村・小和瀬村・鶴森村（以上 本庄市）、忍保村・金久保村・黛村・勅使河原村・石神村（以上 上里町））で「矢田自普請組合」を結成して矢田の堤を長年にわたって自普請してきました。

※1 沈床 河床や堤防の根本が水流によって掘られるのを保護するために築かれる木製の床状のもので、明治時代になるとJ・デ・レーケ（オランダ）が束ねた粗朶を格子状に敷いてその間に粗朶と石を交互に重ねた粗朶沈床が作られるようになりました。

※ 2 水制 河川の水の勢いを弱め川岸が削られるのを防いだり、流れの方向を整えるために水中に設ける木製の板や蛇籠などを利用して作る水刼の施設です。



◆弘化3年(1846)頃の矢田



◆神流川省略河川台帳平面図の矢田

(いずれの絵図でも矢田が湧き水地帯であることがわかります。)

※ 小山川 江戸時代の「新編武蔵風土記稿」(文化・文政期 1804~1829)には小山川について「勅使河原村の北勝場と云う所より湧出す是を矢田清水と呼ぶ金窪、黛、忍保の境を流れ石神村にて二分し一は北に折れ児玉郡新井村に入川路一里、一は東流して児玉郡杉山村に達す川幅二間より五間に至る近村にて用水とす」とあることからこれは現在の忍保川のことで、当時は小山川とよばれていました。

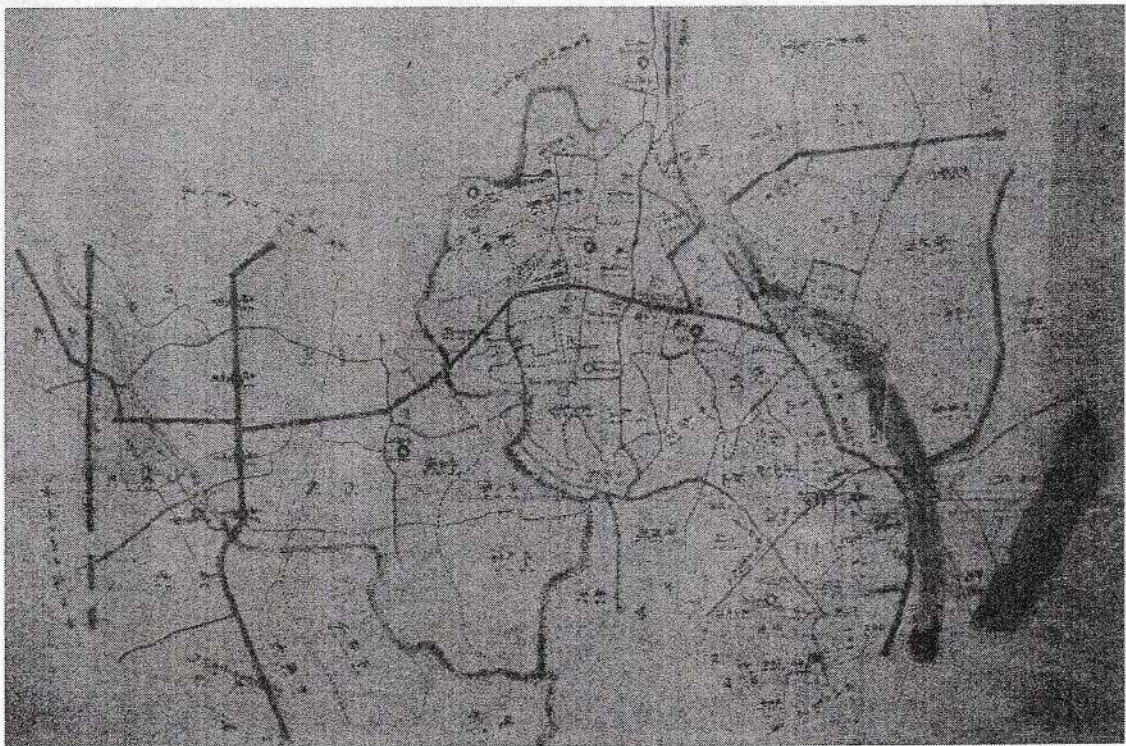
河川台帳記号表							
河川名	河川番号	河川長さ	河川幅	河川深さ	河川流速	河川水量	河川水質
小山川	1	1.2	10	1.5	1.0	100	良
忍保川	2	1.5	12	1.8	1.2	120	良
金窪	3	1.0	8	1.2	0.8	80	良
黛	4	1.1	9	1.3	0.9	90	良
石神村	5	1.3	11	1.6	1.1	110	良
新井村	6	1.4	13	1.7	1.3	130	良
杉山村	7	1.6	14	1.9	1.4	140	良
近村	8	1.7	15	2.0	1.5	150	良

◆河川台帳記号表

○神保原村全図

この地図が描かれた年代はわかりませんが、すでに高崎線の標記があり神保原駅があるところに停車場とあって駅前から北へ中山道に繋がる道には停車場通りとあることから神保原駅が開通した明治30年（1897）以降に作成された地図と考えられます。これ以外にたとえば神保原郵便局（明治43年（1910）開局）や神保原小学校（明治27年（1894）に忍保-善台寺にあった上喜太小学校（かみきたしょうがっこう 明治19年（1886）開校）が現在の石神社の西側に開校）や神保原村役場（明治36年（1905）に石神社の東側に建築）などの標記があればより年代を絞り込むことができます。

この中で、注目されるのは、現在は忍保川と呼称されている河川に小山川と標記されています。神保原村では明治4年（1871）の地図にこの小山川の標記があり、また、現在は御陣場川と呼称されている河川に楠川（くすがわ）とあることからこのころまでは、それぞれこれらの河川を小山川（忍保川）、楠川（御陣場川）と呼称していたことがわかります。さらに字名が記載されている中にはフリガナがつけられており、当時の字名の読み方がわかります。よく見ると、八町河原の前河原にはマイカワラとあり、忍保の宮前にはミヤマイとフリガナがつけられています。そこで当時は前のことをマイと呼んでいたことがわかります。



◆ 神保原村全図

○最新「上里町土地名鑑」町制施行・国土調査完了記念

(昭和47年(1972)5月1日)

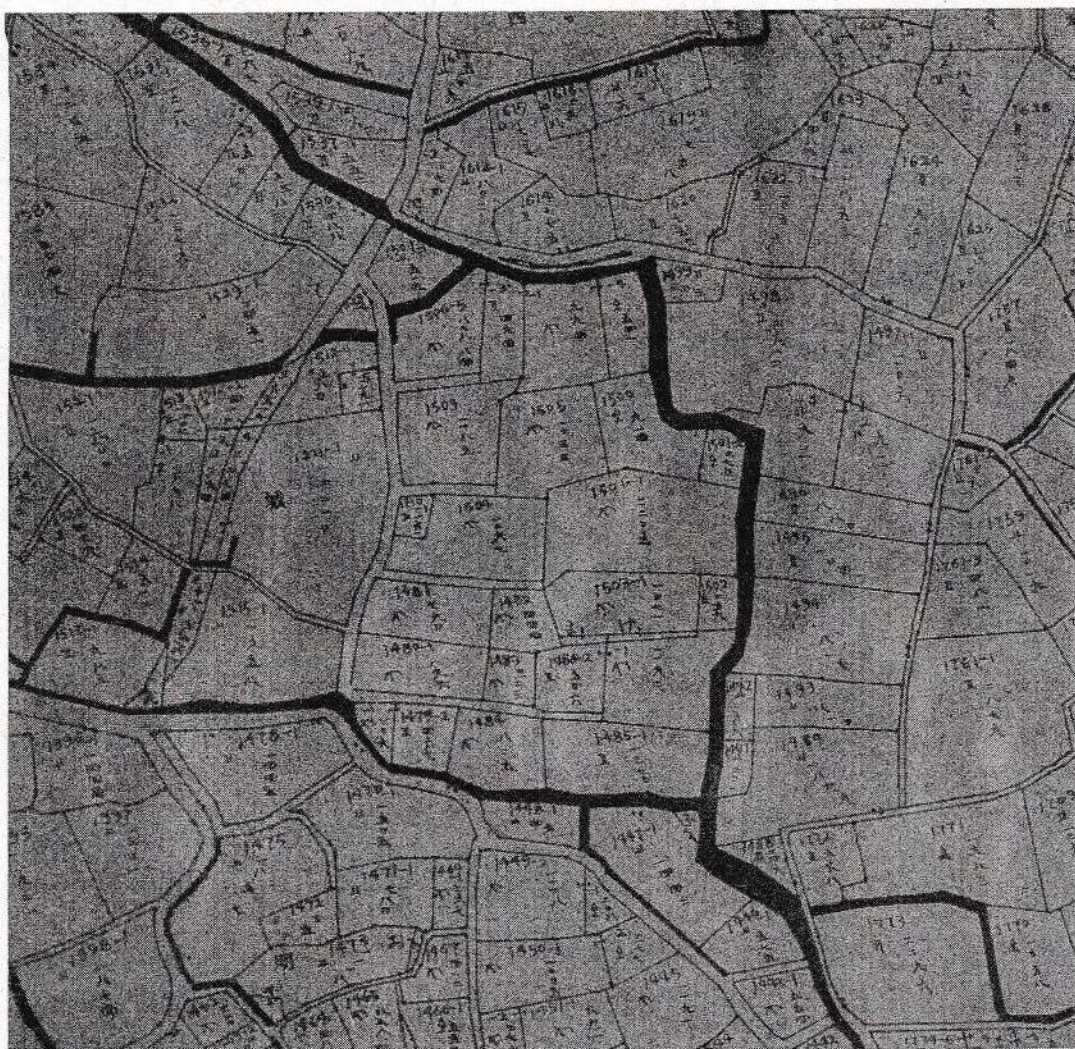
この地図は、上里町の町制施行(昭和46年(1971)11月3日)を記念して作られたもので、町全体を長幡地区(No.1~16)、七本木地区(No.17~37)、神保原地区(No.38



◆勅使河原-丹生神社付近(旧河道の曲流地形が残っている。)

~45)、賀美地区(No.46~59)に分けてさらにその中を59の字に区分して、それぞれの耕図が記載されています。

宅地には屋根の標記があり、田や畑、山林、原野の区分と水路が黒くぬりつぶされ、地番は漢数字と西洋数字の二つが明記されています。他に役場と学校の凡例がありますが、寺社や公民館などの公共物の標記がないためわかりにくい地図となっています。



◆長浜-長浜城周辺

(中央の水路で囲まれた方形区画が長浜城址と考えられています)

○明治 21 年 (1888) 楠川用水路関係村図

明治 21 年-藤木戸連合戸長役場作成/明治 31 年-長幡村役場永久保存

この地図は長幡村が誕生する前年の明治 21 年に藤木戸連合戸長役場によって製作されたものでその後長幡村役場に引き継がれ明治 31 年 (1898) に永久保存となり、現在は郷土資料館で保管しています。

楠川用水路は神流川八堰の三番堰より取水する阿保領用水関係水路で、この絵図は阿保領用水が神川町で肥土用水と楠川用水、新田川用水に分流する中の楠川用水の水路について記載されています。

楠川用水は大きく分けると神川町小浜で五明堀と阿保堀に別れ、五明堀は神川町小浜-関口-元阿保-四軒在家-上里町長浜-五明-帯刀へ流れます。阿保堀は神川町

小浜—関口—元阿保—上里町大御堂—藤木戸—三町—堤—七本木—石神村へ流れています。この地図ではこの中で長幡村を流れる大御堂、長浜、藤木戸、五明、帯刀の用水路が描かれています。

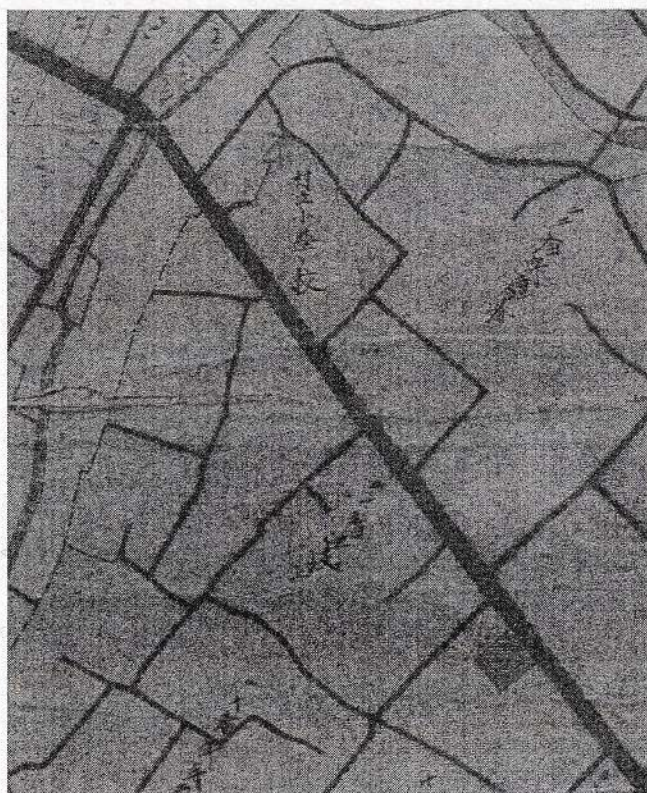
○上里村大字帯刀全図 其ノ二 1/1000 昭和 37 年 (1962) 7 月

この地図には大字帯刀の南側半分の原田・鬼塚・南本宿・屋敷・東田・太田・堰ノ上及び五明内にある飛び地である水引塚東・金屋敷・塩屋の各字の耕図が地番とともに宅(宅地)、田、畑、林などに分類され記載されています。帯刀には帯刀古墳群があり円形の耕地がみられることから現在失われた古墳址などをみることができます。

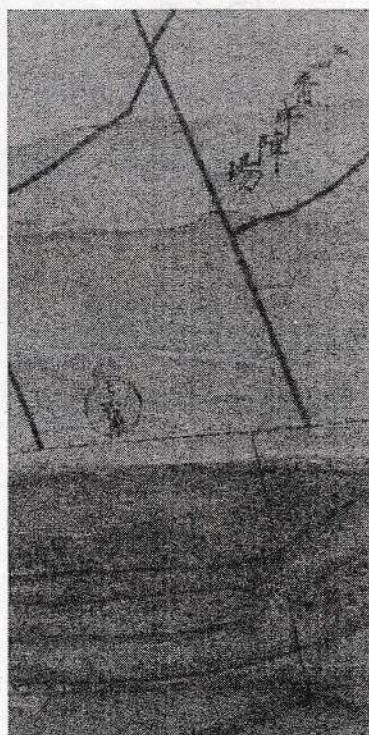
また金屋敷は金井屋敷のことで、東西 43m、南北 33m の方形区画の中に宅地がありその周りを畑が取り囲んでいる様子がよくわかります。

○賀美邑(邑)全図 1/3000

この地図の製作年代はわかりませんが、明治 24 年 (1891) に現在地に建築された村立小学校(賀美小学校 当時は乾武小学校)があり、明治 44 年 (1911) に金久保 693-2 に新築された賀美村役場が黒塗してあることや、明治 42 年 (1909) に蒸気機関車の煤煙により焼失した大光寺が消失前(昭和 2 年 (1927) に再建)の場所に描か



(中央斜めに通るのが中山道で中山道に沿った右下の方形区画が賀美村役場)



(陣場にある古戦場址)

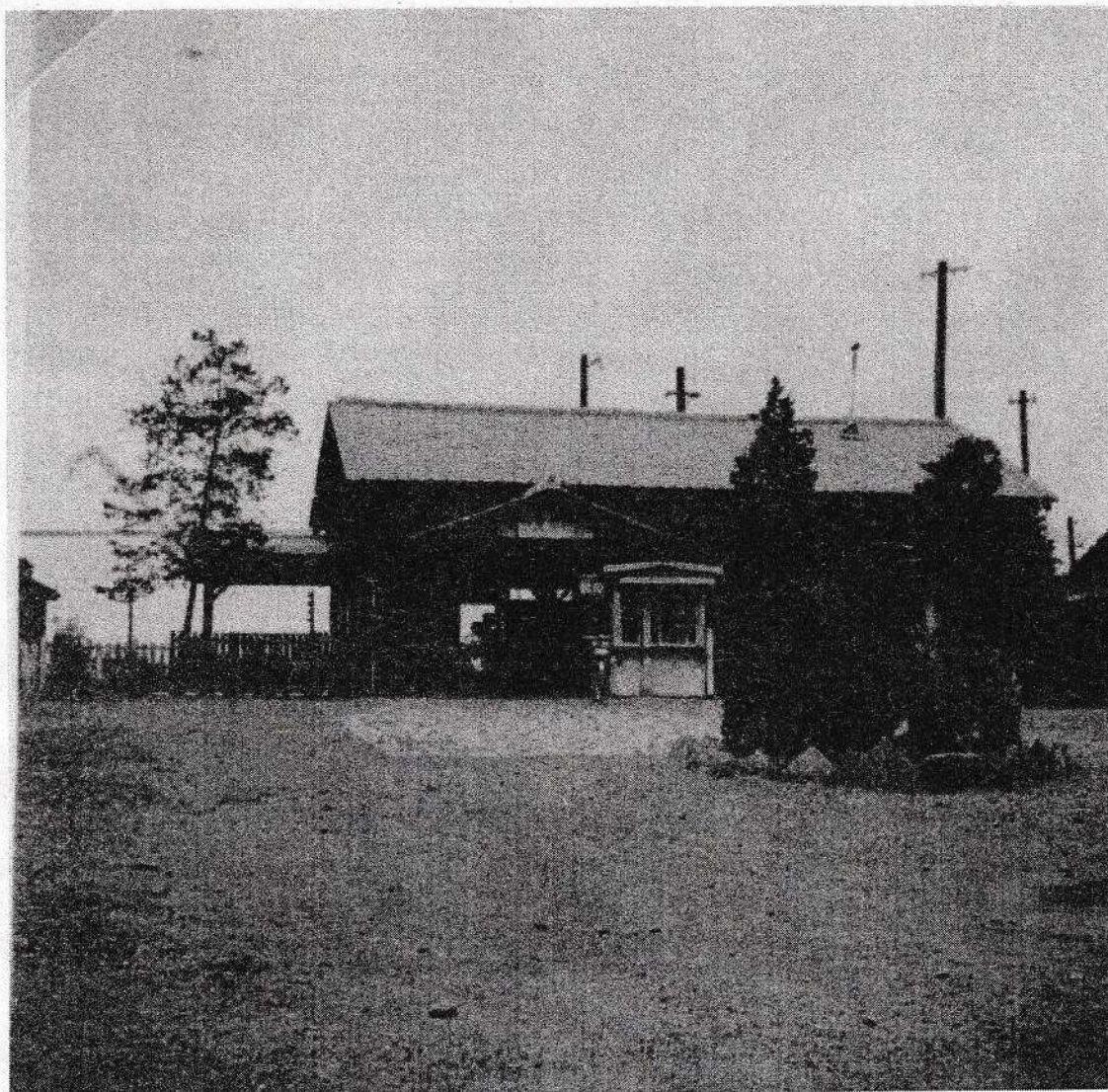
れていること、一方で昭和9年(1934)に架橋された神流川橋が明記されていないことから、この地図の製作年代は明治後半から昭和初期ころと考えられます。

また、神流川の対岸にある勅使河原字陣場に丸枠で古戦場址と記されていることから当時はこの周辺を神流川古戦場と考えられていたことがわかります。

○昭和31年(1956)9月「上里村全図」1/20000

合併してまもない上里町の様子がわかります。国道17号(昭和33年(1958)12月開通)や関越自動車道(昭和55年(1980)7月17日開通(東松山市-前橋間)・上越新幹線(昭和54年(1979)3月2日)はまだ通っていません。そこで中山道と藤岡道、そして高崎線が主要な交通網であったことがわかります。

また、この地図には記号◎の役場の標記が昭和32年から平成13年まで使われてい



◆昭和32年(1957)の神保原駅-

た七本木字窪裏沼 929 番地 1 にありますが、この時にはまだ建築中で、実際には旧四ケ村の役場に公民館の標記である○が旧役場庁舎となっており、その中で神保原役場を仮の本庁舎、他三ケ村の旧役場庁舎を支所として利用していました。上里村役場が完成するのは翌年の昭和 32 年 3 月 28 日のことです。

その他、八町河原には烏川に二ヶ所の渡船の標記があります。また、中山道から石神社を経由して忍保-池上神社へ向かう道は、よく見るとその後八町河原の渡し場へ向かっていることがわかります。

○昭和 43 年 (1968) 7 月「上里町全図」1/20000

これは昭和 31 年から 12 年たった昭和 43 年の地図で、ベースは昭和 31 年の地図が利用されているため、パッと見は大きな違いはありませんが、よく見るといくつか変化していることがわかります。まずは間違い探しのように地図をみて見つけてみてください。

わかりましたか？では、

- 1 国道 17 号が開通している (昭和 33 年 12 月 1 日 開通)
2. 上里中学校が開校している (昭和 39 年 (1964) 4 月開校)
3. 元七本木中学校の文の標記が消えている。(神保原中学校・賀美中学校そのまま)
4. 上里村役場北側の西原村営住宅が記載されている (昭和 33 年 3 月入居)
5. 石神の字名が神保原町へ変えられている (昭和 33 年 4 月に改名)

こんなところでしょうか？

このころの上里村は昭和 35 年 3 月 15 日に制定された「上里村工場誘致条例」により、各企業に対してさまざまな働きかけが行われ、神保原中学校の跡地に昭和 39 年 (1964) に工場を建設した東京製菓(株)をはじめとして、昭和 40 年代にはいと、ようやく上里村に工場が進出しはじめました。

昭和 42 年 (1967) 4 月 名取製作所(株) (昭和 51 年 (1976) より(株)栗本鉄工所)

昭和 43 年 (1968) 11 月 東京日産化学(株)

昭和 46 年 (1971) 9 月 18 日 キングレト(株) (現キヤノンホ-ネツ 旧七本木中学校跡地)

昭和 56 年 (1981) 11 月 27 日 児玉工業団地第 1 期分譲開始

○昭和 47 年 (1972) 「上里町全図」1/10000

昭和 46 年 6 月 19 日発行の「広報かみさと」第 26 号に「新しい町名は？」と書かれた記事があります。これによれば 6 月 25 日まで新しい町名を募集しています。翌月の第 27 号「広報かみさと」では石神町や美ノ原町など 115 通の応募の中から“上里町”に町名が決まり、これによって昭和 46 年 7 月 20 日から行われた上里村定例村議会で“上里村を上里町とすることを埼玉県知事に申請する議決”が可決され、県に申請したところ 9 月埼玉県議会で承認され、11 月 3 日から上里町として新しい歴史を刻むことになりました。

この地図は上里町となつてはじめて発行されたものです。道路は国道 254 号線が上里町を通り、役場の隣には上里公民館（中央公民館 昭和 45 年）が建築され、上里町農協（昭和 37 年 当時上里村）や各支所には農の標記が加えられています。

昭和 35 年（1960）の資料では、上里村の 64.2%が農業を営んでいました。まさしく農業は上里村の基幹産業であったわけです。そうした中で、まだ機械化が進められていなかった当時は、農業は人手間によって成り立っていました。そこで、上里村でも就学前の乳幼児の教育福祉施設の必要性がさげばれ、やがて保育園・幼稚園の開設となりました。



◆旧上里町役場の玄関に飾られた町制施行記念の横断幕

昭和 31 年（1956）5 月 1 日には萌美保育園が開設され、つづいて、昭和 32 年 12 月 1 日には安盛保育園が開設されました。

- 萌美保育園 昭和 31 年（1956）5 月 1 日
- 安盛保育園 昭和 32 年（1957）12 月 1 日
- ひまわり保育園 昭和 33 年（1958）4 月
- 長幡保育園 昭和 41 年（1966）4 月
- 神保原幼稚園 昭和 45 年（1970）4 月
- 中央保育園 昭和 48 年（1973）4 月
- めぐみ保育園 昭和 53 年（1978）4 月

この地図にはこうした保育園や幼稚園を育として標記しています。

○昭和 52 年 (1977) 8 月「上里町全図」1/20000

昭和 50 年代になると上里町の地図も大きく変わります。昭和 46 年 8 月 24 日、東京と新潟を結ぶ関越自動車道の路線が正式に発表になりました。この計画によれば、上里町の中心を東西 5.2 ㎞にわたって通過することになり、さらに上里サビシアの建設計画ももりこまれており、行政関係者並びに土地所有者（地権者）はその対応をせまられることになりました。また、同年 10 月 12 日には、同じく上越新幹線の路線も発表され、上里町には二重の大きな課題が提起されました。特に上越新幹線は七本木小学校の上を通過することになり、小学校の移転等早急な対応を余儀なくされました。

その後、関越自動車道は、昭和 48 年 1 月 17 日の路線測量にはじまり、同年 4 月 20 日地権者との合同調印式、昭和 51 年工事着工、昭和 55 年 7 月 17 日無事開通式を向かえました。

一方上越新幹線は、南北に分断される七本木小学校の移転、上里東小学校の開校で決着し、昭和 50 年 (1975) 10 月 6 日着工、昭和 51 年 11 月 15 日開通となりました。

また、上里町の大きな基幹産業であった養蚕もほとんど行われなくなり、上里町の駅前のシンボルであったヤマトの煙突も解体されることになりました。

明治 38 年製糸会社大和組神保原工場として設立された大和組 (昭和 16 年 (1941) 改称さらに昭和 45 年 (株) ヤマトに改称) は、昭和 4 年 4 月 7 日・昭和 35 年 12 月 26 日の 2 度の火災に会いながらも、養蚕が盛んであったこの上里村の基幹産業として重要な位置を占めていました。しかし、昭和 30 年代の製糸業の衰退とともに、しだいにその経営内容を変えなくてはなりません。そして昭和 57 年 6 月 5 日、長年上里のシンボルでもあった煙突が解体されることになりました。映画「野麦峠」の撮影がおこなわれた昭和 56 年 (1981) 10 月 6 日も今では懐かしい思い出となっています。

参考文献

- 2011「まちになって 40 年」上里町立郷土資料館
- 2014「江戸時代の洪水と治水」上里町立郷土資料館
- 2014「研究紀要」第 12 号 上里町立郷土資料館
- 2015「安保領用水」上里町立郷土資料館

〔編集後記〕

上里村が誕生した昭和 29 年前後の地図を見ると七本木の三田や嘉美に平城京や平安京のような方形区画に区切られた真つすぐな道があります。これは戦中の児玉飛行場や戦後の開拓の痕跡で上里町にかつて大規模開発が行われたことがわかります。

一方で極端に折れ曲がる弧状の道を各所に見つけることができます。これは完新世の神流川扇状地内にはかつて神流川が流れていた旧河道跡と考えられる曲流地形があり、道はこの曲流地形にそって作られていることに由来しています。つまり自然地形を利用して整備してきた道ともいえます。それはきっと何度も何度も洪水などの自然災害をくりぬけて今に伝えられた道なんだろうと地図をみて漠然と考えています。

上里町立郷土資料館

〒369-0306

埼玉県児玉郡上里町大字七本木 67

かみさと の むら絵図

令和 2 年 2 月 1 日 (土)